

リアルタイム授業の取組み 和歌山看護学部

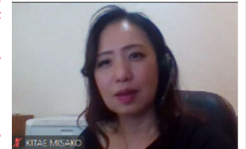
1和歌山看護学部は、当初からリアルタイムを中心に遠隔授業を進めています。そのねらいやメリットを教えてください。

北得准教授・遠隔授業には、学生の不安もありました。特に1年生が安心感を持ち、大学の雰囲気を感じられるようリアルタイムを重視しました。入学してくる学生の動機は様々だと思いますので、看護を学ぶことのエッセンスを少しでも届けたいと考えました。

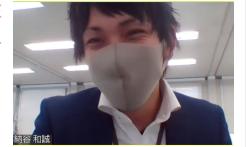
納谷助教・Zoomには投票機能やアンケート機能がありますので、これらを活用して双方向型で授業を進めることができます。教員も学生も、徐々に慣れてきました。北得准教授・リアルタイム型の遠隔授業を進めることで教員の意識づけにもなり、アクティブラーニングが進んだように感じています。パソコンの操作が苦手な学生や教員を、どのようにサポートしていますか。

北得准教授・パソコンの操作が苦手な学生や教員もいました。です。ので、ICT活用授業支援員のほか領域ごとに担当者を置きましたし、助教・助手の教員がサポートしてくれました。苦手な人も前向きに取り組んでくれ、全体的にスキルが上がっていききました。納谷助教・助教・助手はもともと合同研究室ですので、遠隔の環境でも常に経験を共有しています。パソコンの操作は、同じところで躓く傾向があります。画面共有や投票機能などのサポートを行って、皆さん慣れていきました。

北得准教授・遠隔授業は、対面授業よりも出席率が高いかもしれません。学生の学習意欲は非常に高いです。和歌山看護学部は自転車やバイクで来ている学生が多いので通学に伴う感染リスクは低めですが、対面授業が可能になってからも、遠隔授業をうまく組み合わせたいと思います。本年度は、大学院和歌山看護学研究所も新設されました。社会人の大学院生には遠隔授業が便利です。今後可能性を考えていきます。最後に、遠隔授業の充実に向けた課題を教えてください。



北得美佐子准教授



納谷和誠 助教

が欲しい場合はコンビニで印刷しています。ペーパーレスに努めていますが、印刷に備えて配布資料をコンパクトにしたり、白黒にする配慮もしています。また、VDT症候群も大きな課題です。学生の8割から、目が疲れるという反応がありました。中には耳鳴りや頭痛を訴える学生もいましたので、休憩を取るなど配慮が必要だと感じています。家族の状況によって接続が悪い学生もいますので、オンデマンドも取り入れるなど工夫していければと思います。



清水雅富准教授(写真)

齋藤さな恵講師

遠隔で行う実験の取組み

医療保健学部 医療栄養学科

【生化学実験 I のひとこま】

- モーリッシュ反応
- セリワノフ反応
- ヨウ素デンプン反応

動画で反応色を見て陽性・陰性を判断し、糖質の種類を考える



清水雅富准教授・対面授業ではグループで実験を行い結果をまとめていくので、積極的な学生と控えめな学生が分かれがちです。しかし、遠隔授業では、全ての学生が個人で実験結果を考察し、取りまとめる過程を経験できます。その意味では遠隔で行う実験も有意義と考えています。

医療栄養学科には、実験科目が数多くあります。実験科目は遠隔でも実施できませんが、齋藤講師・本来は校舎で実験してもらいたいです。今は難しいので教員が行う実験を動画で見てもらいます。動画でも、実験手順を学んだり機器操作を理解することは可能です。清水雅富教授・生化学実験 I では、教員が実験室で授業を行う予定だった実験を行い、ビデオに撮っておきま。学生には自宅で動画を通じて実験を見てもらい、実験方法・結果とともに原理などの説明を加え理解してもらっています。更にこれらの結果を踏まえて、例えば「未知試料の結果を提示し、この結果になる物質はどれか」などを理由とともに、課題レポートにまとめてもらいます。実験では手技も大事ですが、それ以上に思考に重点を置いていきます。ある程度は遠隔でもできます。逆に遠隔授業で取り上げにくい実験には、どのようなものがありますか。清水雅富教授・例えば実験・実習科目の中では動物の解剖も行っています。これを動画にするのは難しいです。齋藤講師・医療人になるために情報倫理も大事なので、学生がこのICTを活用した授業を通して、倫理観を深めてくれるといいなと思います。遠隔で実験を行ってよかったと思っ場面を教えてください。